

## 第1回庄内地区中高一貫教育校設置に係る懇談会資料

### 庄内地区への中高一貫教育校の設置について

平成30年10月25日

高校改革推進室

#### 1 中高一貫教育の制度の導入

##### (1) 「中央教育審議会第二次答申」(平成9年6月)

従来の中学校・高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現を目指す。

##### (2) 「学校教育法等の一部を改正する法律」(平成10年6月)

平成11年4月から中高一貫教育を選択的に導入する。

##### (3) 文部科学省「21世紀教育新生プラン」(平成13年1月)

当面、高校の通学範囲に少なくとも1校(全国で500校程度)整備されることを目標とする。

#### 2 中高一貫教育校の設置形態及び特色

##### (1) 中等教育学校

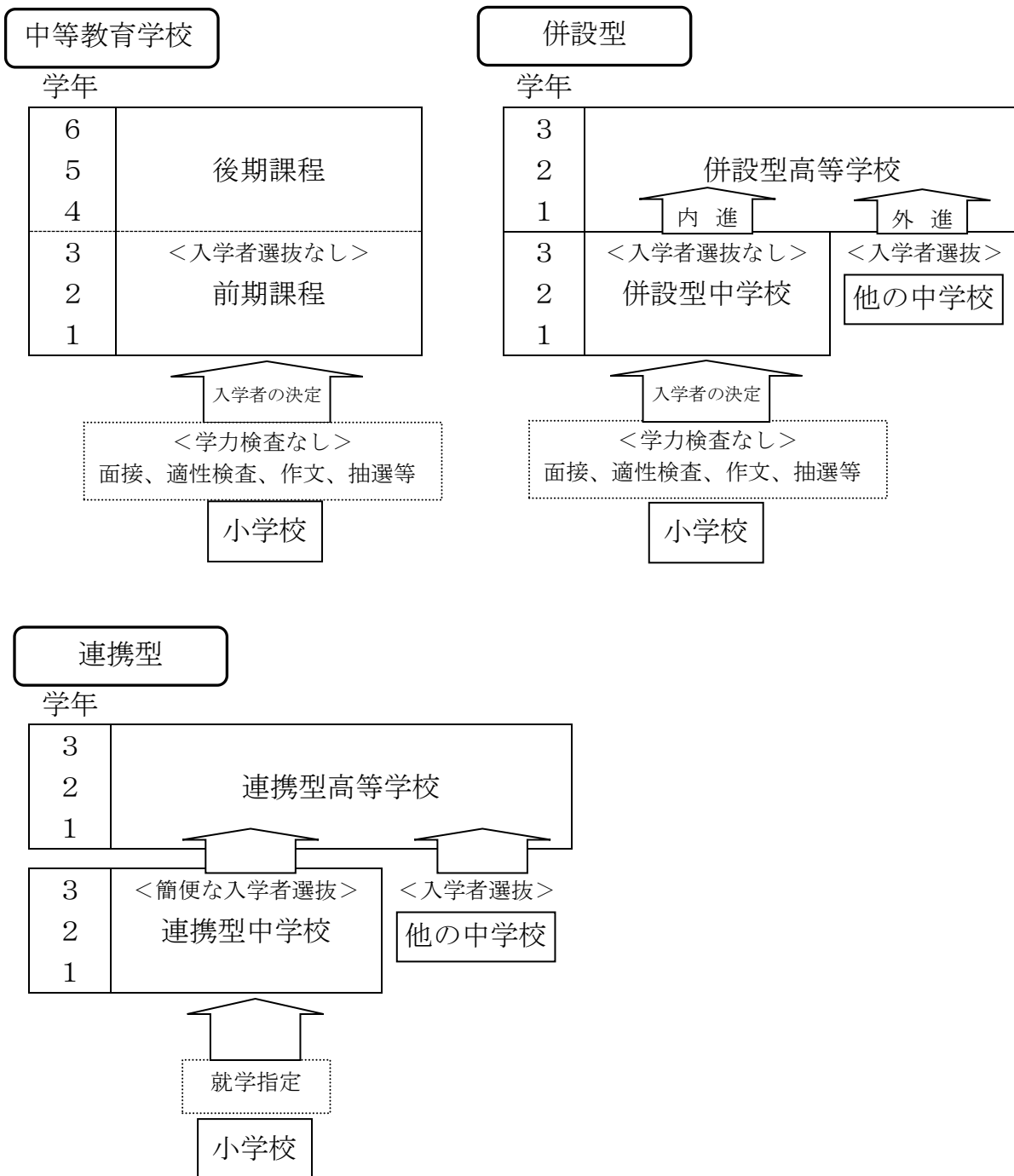
- 6年間一体的に中高一貫教育を行うために設けられた新しい学校種で、原則として同一学年は同じ集団で6年間を過ごすこととなる。
- 前期課程(中学校に相当)と後期課程(高校に相当)に区分されており、高校の指導内容の一部を前期課程で指導できるなどの教育課程の基準の特例がある。
- 広域の小学校からの入学が可能で、公立の場合、学力検査以外の方法で選抜する。

##### (2) 併設型中高一貫教育校

- 設置者が同じ中学校と高校を接続するもので、中学校段階から6年間過ごす生徒(内進生)と高校段階から3年間過ごす生徒(外進生)がいる。
- 高校の指導内容の一部を中学校で指導できるなどの教育課程の基準の特例がある。
- 広域の小学校からの入学が可能で、公立の場合、学力検査以外の方法で選抜する。  
また、併設型中学校から併設型高校への入学者の選抜は行わないが、他の中学校から併設型高校への入学者については通常の公立高等学校入学者選抜による。

##### (3) 連携型中高一貫教育校

- 既存の市町村立中学校と県立高校など、異なる設置者による中学校と高校が、教育課程の編成や教員・生徒間の交流等で連携を深めるもの。
- 連携型中学校から連携型高校に進学を希望する生徒については、調査書及び学力検査の成績以外の資料により選抜できる。



### 3 全国の設置状況（平成30年度）

区分	中等教育学校	併設型	連携型	計
公立	31	93	89	213
私立	18	396	3	417
国立	4	1	0	5
計	53	490	92	635

## 4 本県における中高一貫教育

### (1) 連携型中高一貫教育の導入

- 平成13年度から金山地区と小国地区において、それぞれの町立中学校と県立高校の間で実施。
- 授業や学校行事を通して交流を深めたり、地域からの支援を受けながら地域学習に取り組んだりするなど、特色ある教育活動を展開。

### (2) 「山形県中高一貫教育校設置構想」(平成21年6月) ⇒ 別冊 **補足資料1**

- 外部有識者等からなる「山形県の中高一貫教育の在り方に関する検討委員会」を設置し、その報告書を受けて県教育委員会が策定。

#### <概要>

#### ① 設置の意義

ア 高校入学者選抜の影響を受けることなく安定した学校生活の中で、6年間を通して生徒を継続的に把握・理解しながら計画的・継続的な教育活動を実践することにより、生徒の個性や能力をより伸長することが期待できる。

イ 幅広い年齢集団の中で、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などを通じ、社会性や豊かな人間性を育成することが期待できる。

#### ② 設置形態

6年間の計画的・継続的な教育活動を効果的にできる形態であり、高校の適正な学校規模を確保しながら、既存の中学校への影響に配慮した中学校の学校規模とすることが可能であることから、併設型中高一貫教育校の設置を基本とする。

#### ③ 設置場所及び通学区域

当面、内陸地区と庄内地区にモデル校を設置し、実践を検証した上で、将来的には県内4学区への設置を検討する。設置場所は、広域的に入学者を確保する観点から交通の利便性の良い場所であり、かつ、既存の中学校への生徒数への影響が極力小さい場所とする。通学区域は県内一円とする。

#### ④ 設置学科

小学校卒業段階において、将来の職業に大きな影響を与える決定をすることが困難であると思われることから、高校卒業後の進路選択の幅が広い普通科を基本とする。

#### ⑤ 設置時期

早期の設置に努める。

## 5 東桜学館中学校・高等学校について ⇒ 別冊 補足資料2

### (1) 設置の経緯

- 北村山地区の県立高校再編整備計画の一環として、県立楯岡高校を母体とした併設型中高一貫教育校を、平成28年度に東根市に設置。
- 楯岡高校の校舎の耐震性がなかったため、東根市役所南側の用地に、中高一体型の校舎を新築。

### (2) 学校教育目標

- 地域社会及び国際社会の発展に貢献しようとする高い志を育てる。
- 豊かな感性や探究心と論理的な思考力を基盤とした創造的知性を育てる。
- 心身ともに健やかで、郷土愛と公共の精神に富む豊かな人間性を育てる。

### (3) 教育課程の特色

- 中学校（55分×週30時間授業）
  - ・ 55分授業や高校入試がないことによる時間的余裕を活用し、学力、個性、創造性を伸長
  - ・ 高校の学習内容を一部盛り込んだ先取り学習を実施
- 高校（55分×週32・33時間授業）
  - ・ 1年次は200名を6学級の少人数に編制し、きめ細かく指導
  - ・ 志望大学や習熟度に応じて科目を選択して学習できるカリキュラム

### (4) 入学者選抜

- 中学校（定員99名、男女同数程度）
  - ・ 適性検査、作文、面接、調査書により、本校における学習への適応能力、学ぶ意欲等を総合的に判断して選抜。
  - ・ 3年後、東桜学校高等学校へは、入学者選抜は行わず、入学の意思確認のみで進学できる。
  - ・ 通学区域は県下一円。
- 高校（普通科、定員200名）
  - ・ 他の中学校からの志願者は、山形県公立高等学校入学者選抜を経て入学する。
  - ・ 通学区域は県下一円。

## 6 庄内中高一貫校（仮称）について ⇒ 別冊 補足資料3

### （1）設置についての地元自治体の要望と計画案の公表

- 平成 22 年に、県立高校が所在する鶴岡市、酒田市、庄内町、遊佐町の教育委員会と意見交換を行ったが、その時点で設置を希望する自治体はなかった。
- 平成 26 年度以降、鶴岡市より重要事業要望として、鶴岡市内への中高一貫教育校の設置要望が出されており、また、庄内開発協議会からも、平成 27 年以降、庄内地区への中高一貫教育校の設置要望が出されている。 ⇒ P. 9 <参考 1>
- 要望を踏まえ、平成 29 年 10 月に「田川地区の県立高校再編整備計画<第 2 次計画案>」の中に位置付けて、庄内中高一貫校（仮称）設置計画案を公表した。

### （2）概要

- 鶴岡南高校と鶴岡北高校を統合するとともに、県立中学校を新設し、庄内地区の併設型中高一貫教育校（「庄内中高一貫校（仮称）」）を設置することにより、中等教育のもう一つの選択肢を提供し、教育環境の充実を図る。
- 1 学年当たりの学級数は、併設型高校については普通科 6 学級、理数科 1 学級、併設型中学校については 2～3 学級とする。
- 現在の鶴岡南高校及び鶴岡北高校の敷地・校舎を、必要な改修等を実施した上で活用する。
- 平成 36 年度までの開校を目指す。開校年度には、併設型中学校及び併設型高校のそれぞれ 1 学年のみを新たに募集する。開校前年度に鶴岡南高校と鶴岡北高校の 1、2 学年に在籍していた生徒は、併設型高校の 2、3 学年に在籍することとなる。
- 通学区域は県内一円とする。

#### <想定される教育上の主な特色>

- ア 教育課程の基準の特例を活用するなどして、6 年間一貫した計画的・継続的な指導を行い、一人ひとりの個性と能力を最大限に伸ばす。
- イ 大学・研究機関や企業と連携し、自ら設定した課題の解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ探究型の学習を推進し、確かな学力を身につけさせる。
- ウ 外国語教育や理数教育を充実させ、グローバル化に対応した実践的なコミュニケーション能力や、数学的・科学的思考に基づき判断・表現できる力を育成する。
- エ 庄内の自然、産業、文化などに関わる体験活動を充実させ、地域理解を深め、郷土を愛する心を育成する。
- オ 学校行事、生徒会活動、部活動など多様な場面で中学生と高校生が協働する機会を設けることにより、社会性や豊かな人間性を育成する。

### (3) 鶴岡市への併設型中高一貫教育校の設置理由について

- 庄内地区の各自治体の中では、現状及び将来の見通しにおいても、鶴岡市が最も子どもの数が多く、既存中学校への影響が比較的小さいと思われる。
- 将来にわたって併設型中高一貫教育校としての役割を果たしていくためには、併設型高校の規模の確保は不可欠であり、高校再編整備との整合性を取る必要がある。今後、田川地区の高校再編整備を進める中で、より望ましい形で中高一貫教育校を設置するための条件を整えることができる。
- 中高一貫校設置の早期実現を図るためには、公共施設の長寿命化による活用が国及び県の方針として示されている中、既存校舎の活用がより現実的な対応となる。鶴岡南高校と鶴岡北高校は近距離に立地しており、両校の校舎・敷地は中高一貫教育校での活用に適している。
- 平成 26 年度より鶴岡市の重要事業要望として併設型中高一貫教育校の設置要望が出されており、また、鶴岡市教育委員会は「中高一貫教育に関するシンポジウム」を開催するなどして、市民の理解促進に努めている。

#### <庄内地区各自治体の今後の中学校卒業生数の見通し>

	平成 29 年 3 月 [現在高 2]	平成 36 年 3 月 [現在小 4]	平成 44 年 3 月 [現在 2 歳]
鶴岡市	1,202 人	1,002 人 (83.4%)	809 人 (67.3%)
酒田市	1,001 人	814 人 (81.3%)	641 人 (64.1%)
三川町	78 人	60 人 (76.9%)	68 人 (87.2%)
庄内町	216 人	182 人 (84.6%)	127 人 (58.0%)
遊佐町	138 人	90 人 (65.2%)	62 人 (44.9%)

※ ( ) は平成 29 年の中学校卒業生数に対する割合

平成 29 年 3 月は学校基本調査による確定値、平成 36 年 3 月は学校基本調査による推計値、平成 44 年 3 月については市町による幼年人口調査による。

### (4) 懸念される課題及びその対応方針

#### ア 受験競争の低年齢化について

- 東桜学館中学校の入学者選抜においても、適性検査、作文、面接、小学校が作成する調査書を資料として総合的に選抜している。特に、適性検査問題については、小学校学習指導要領の範囲を逸脱せず、基礎的な知識・技能と思考力・判断力・表現力を測る出題としており、事前説明会においても日頃の小学校の学習にしっかり取り組むことで対応できる旨を説明している。
- 地方都市における公立中高一貫教育校の志願倍率を見ると、大都市圏とは異なり、受験競争が過熱化しているとは言えない状況にある。

< 東北地方の県立中学校の志願倍率（平成 30 年度） >

青森県立三本木高等学校附属中学校	1.35 倍
岩手県立一関第一高等学校附属中学校	2.08 倍
秋田県立秋田南高等学校中等部	2.43 倍
秋田県立横手清陵学院中学校	0.66 倍
秋田県立大館国際情報学院中学校	0.81 倍
宮城県仙台二華中学校	4.43 倍
宮城県古川黎明中学校	1.94 倍
山形県立東桜学館中学校	2.24 倍
福島県立会津学鳳中学校	2.06 倍

**イ 既存中学校への影響について**

- 少子化が進行する中、県立中学校が設置されることによって周辺の中学校の生徒数が更に減少し、また、比較的学力が高い生徒やリーダー的な存在となる生徒が県立中学校に進学することにより、既存中学校の学力や活力の低下を招くのではないかとの指摘がある。
- 平成 28～30 年度の東桜学館中学校の入学者を見ると、20 の出身市町のうち最も影響の大きい地元東根市においても、小学校卒業者の 8.6%に止まっており、その他の入学者は他の市町に広く分散している。
- 従来の中学校・高校には、中学校で学習しながら、自己の希望や目標が具体化し、進路意識が明確になった時点で、最もふさわしい高校を選択できることや、高校入学選抜に向けての学習が基礎学力の向上につながることなど、中高一貫教育にない特色がある。
- 東根市教育委員会によれば、東桜学館中学校開校後の周辺中学校では、自校の良さを際立たせ、競争力を高めるため、学校経営を見直す好機と捉え、意欲的に取り組んでいるとのことである。さらに、小学校でリーダー的存在だった子どもが仮に抜けたとしても、その他の子どもが活躍するチャンスが増えたと言前向きに捉え、リーダーの育成に今まで以上に力を入れるようになったとのことである。
- 庄内中高一貫校（仮称）の設置に当たっては、庄内地区全体の子どもの数の現状及び将来見通しを踏まえて、県立中学校の定員を適切に定めるとともに、開校準備段階から地元の教育委員会ともよく話し合いながら、県立中学校と周辺中学校との間に切磋琢磨できる関係が築けるようにしていく。

**ウ 分離した校舎での学校運営について**

- 鶴岡南高校の教室棟は築 36 年、鶴岡北高校の校舎は築 28 年と耐用年数には達していない中、いずれかを空き校舎にしながら、他方に不足する教室棟や体育館を新たに建設することは、財政効率の観点から課題が大きい。

- 中学校と高校の校舎が分離した場合、中高一貫教育校のメリットが十分生かし切れないのではないかと指摘があるが、放課後の部活動や探究活動、学校行事、中高生の合同学習など、中高生が交流する場면을意図的に設けることで、異年齢集団での人間形成を図る。
- ICT機器を活用するなどして、中高教員間のコミュニケーションを密にできる環境を整備する。
- 授業で中高教員が相互乗り入れする場合も考えられるが、教員の校舎間の移動時間を確保できるよう時間割編成での配慮も必要である。
- 高校2校分の施設を活用した場合、恵まれた環境での学校運営が可能となる。

## 7 計画案公表後の経過と今後の見通し ⇒ P. 10 <参考2>

- 当初は平成30年1月の教育委員会で方針決定する予定としていたが、地域説明会（平成29年11月）やパブリック・コメント（同10～11月）等では、賛否両論があり、方針決定を見送った。 ⇒ P. 11 <参考3>
- 今年度改めて、田川地区の小中学校PTA代表、小中高校長代表、大学教員、鶴岡市からなる「鶴岡市内の県立高校再編整備に係る関係者懇談会」を設置し、庄内中高一貫校（仮称）の設置に関する意見を聴取している。
- 関係者懇談会での議論の参考にするため、関係高校の同窓会や産業界等19団体27名からの意見聴取と未就学児の保護者を対象とした説明会を実施している。
- また、東桜学館開校3年目となり、その取組み状況や周辺地域への影響について中間的な検証を行った。 ⇒ 別冊 **補足資料4**
- さらに、酒田市からは、庄内地区全体の意見を聴いた上で進めて欲しいとの要望をいただいたことを踏まえ、8月に庄内地区の各自治体に対し、「庄内地区への中高一貫教育校の設置に係る意向調査について」依頼し、12月末までに回答をいただく予定としている。
- このように地域の声を丁寧に聴きながら検討し、必要に応じて調整を図りながら、県教育委員会として判断していく。



### 3 中高一貫教育の推進について

（教育庁 高校教育課）

#### 要望事項

#### ○ 庄内地区への中高一貫教育校の設置

##### 〔現状〕

県教育委員会では、県立高校再編整備基本計画において、庄内地区への中高一貫教育校設置の検討を示しています。中高一貫教育は、児童生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境のもとで学ぶ機会を選択できるとともに、中等教育の多様化を推進し、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現をめざすことが期待されます。また、地域に根ざした特色ある教育を進め、ふるさとを愛し貢献しようとする心を育てるとともに、英語力等の強化を図り、グローバル化に対応できる人材を育成していくことや、将来を見通した多様な選択肢を提供できる設置形態について、各自治体で調査研究が進められています。

##### 〔地域の取組み〕

飽海地区では一定の高校再編が進み、田川地区では引き続き再編整備が検討されていることから、今後の県立高校再編整備の中で、庄内地区への設置が望まれます。

庄内地区では、鶴岡市を中心として、高等教育機関と新たに誘致されたベンチャー企業を含む地域産業との連携が積極的に進められており、子どもたちが、高等教育機関と企業との連携に基づいた研究に触れる機会があります。また、様々な研究機関や企業の進出は、多くの研究者やその家族が庄内地区を生活の場とすることにつながり、教育環境の整備と充実に努めています。

また28年度には、鶴岡市において昨年度に引き続き「中高一貫教育シンポジウム」を開催し、広く市民の方々が中高一貫教育校の現状と課題について共有するとともに、今後の高校再編について理解を深める機会を設けるなど、新たな中高一貫教育校の設置に向け、機運を高めています。

##### 〔課題〕

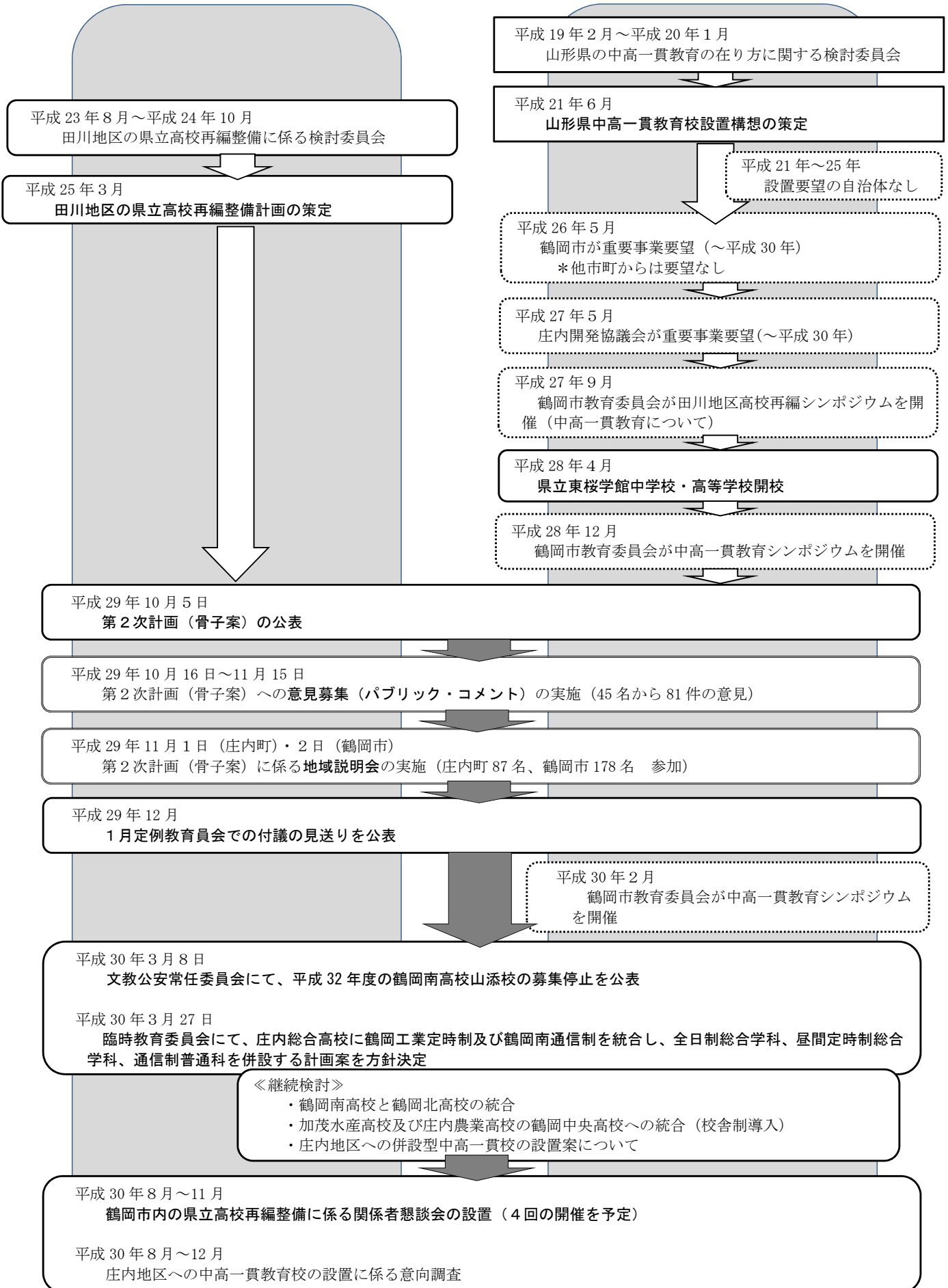
庄内地区における併設型中高一貫教育校の設置にあたっては、県立中学校の新設が必要となります。この場合、現在の23中学校の生徒数や教育内容を踏まえ、募集定員や学区のあり方・教育課程のあり方等が検討課題となります。

また、西学区の高校再編整備基本計画を進める中で、普通科高校のあり方と併せて検討されるものと考えます。

つきましては、地域の発展に一層の貢献が期待される人材育成のため、標記の事項について特段のご配慮をお願いします。

【県立高校再編整備に係る主な経緯】

【中高一貫校の設置検討に係る主な経緯】



## ＜参考 3＞

### 「田川地区の県立高校再編整備計画＜第2次計画（骨子案）＞」に係る 地域説明会及びパブリック・コメントにおける主な意見

<b>地域説明会（鶴岡市会場：11/2、178名参加、庄内町会場：11/1、87名参加）</b> <b>参加者の主な意見（発言及び参加者アンケートの記述より抜粋）</b>	
<p>（肯定的な意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少子化に伴った高校再編の重要性や中高一貫の方針がよくわかった。将来の子供たちが明るく前向きな学校生活を送れればうれしい。</li> <li>○ 地域の学校（庄内総合高校）が存続するのはありがたい。今後も支援していきたい。</li> <li>○ 中高一貫校について、鶴岡は遅れていると思うので早めの開校に向かってほしい。実際に子供を育てている親の意見をもっと聞いてほしい。</li> <li>○ 歴史や過去にとらわれるより、未来へ向けて考えていくことが大切だ。競争しながら学び、成長できる環境は大切だ。</li> <li>○ 伝統が途切れることはさみしいが、中高生の未来が狭まることはよくないので、今の学校の良いところを残した素敵な学校ができると良い。</li> </ul>	<p>（否定的な意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝統ある学校を選べなくなることで、伝統が消えることに納得しかねる。</li> <li>○ 中高一貫校の設置と高校の再編とは別に考えるべきだと思う。</li> <li>○ 中高一貫校については、受験競争の低年齢化、子どもの負担増、地域とのつながりの希薄化などが懸念され、反対である。</li> <li>○ 中高一貫校の理念は分かったが、新校舎の建設を切望する。</li> <li>○ 地域の産業を守り、地域に住み、担い手となる人材を育成する専門高校はぜひ単独で存続させてもらいたい。</li> <li>○ あまりにも性急すぎる。禍根を残さないよう慎重に進めるべきである。</li> <li>○ 拙速に計画を策定せず、様々な方からもっと意見を聞いて進めるべき。</li> </ul>

<b>パブリック・コメント（10/16～11/15、45名から81件の意見）</b> <b>主な意見（抜粋）</b>	
<p>（肯定的な意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中高一貫校は、子ども達の将来への選択肢が一つ増えることになり、期待している。</li> <li>○ 高校教育の質を担保するためには、学校規模が必要で、そのためには高校の統合が必要であるという考えに賛同した。</li> <li>○ 生徒数が減少することから、定時制と通信制の再編はやむを得ない。</li> <li>○ 庄内の子どもたちにとってメリットの多い計画なので、推進に当たり今一度地域住民の声を聞くような会を設けてほしい。</li> </ul>	<p>（否定的な意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 周辺市町から中高一貫校への入学希望者が増え、中学生の流出が懸念される。</li> <li>○ 中高一貫教育がどのような役割を果たし、どのような効果をあげているのか実態がわからない。</li> <li>○ 各界に多様な人材を輩出してきた伝統校の統合には反対である。</li> <li>○ 高校の所在地から遠い場所に居住する子どもの教育を受ける機会が損なわれることがないようにしてほしい。</li> </ul>